

新日本グローブ空手道連盟 グローブ空手ルール試合規約

〈グローブ空手〉

S-1 S 軽量級	A-1 軽量級	B-1 中量級	C-1 重量級
56kg 以下級	62kg 以下級	68kg 以下級	73kg～83kg 以下級

〈ジュニアグローブ空手〉

A-1 Jr	B-1 Jr	C-1 Jr	D-1 Jr	E-1 Jr	F-1 Jr
小学1年生	小学2年生	小学3年生	小学4年生	小学5年生	小学6年生

〈中学生ワンマッチ〉

中学生 A-1 (男子)	中学生 B-1 (男子)	中学生 A-1 (女子)	中学生 B-1 (女子)
55kg 以下級	65kg 以下級	50kg 以下級	60kg 以下級

〈壮年部ワンマッチ〉

A-1 軽量級	B-1 中量級	C-1 重量級
62kg 以下級	68kg 以下級	73kg～83kg 以下級

※各階級、トーナメント戦の参加人数が少数の時、ワンマッチ試合になる場合があります。

【試合形式】

〈グローブ空手〉

本戦2分、延長2分。決勝戦3分、延長2分。

※再延長は無しとし、体重が軽い方を勝者とする。

〈ジュニアグローブ空手〉〈中学生ワンマッチ〉〈壮年部ワンマッチ〉

本戦1分30秒、延長1分。決勝戦1分30秒、延長1分。

※再延長は無しとし、体重が軽い方を勝者とする。

【防具】(試合用の防具は主催者側が用意する新日本グローブ空手道連盟認定の防具以外の装着、使用は不可)

〈グローブ空手〉〈壮年部ワンマッチ〉

S-1・A-1・B-1・C-1 全て 14oz グローブ、スネパッド、ひざパッド、マウスピース、金カップ。道着の帯は試合中解けないようテーピング等で必ず止めること。

〈ジュニアグローブ空手 中学生ワンマッチ〉

A-1Jr・B-1Jr・C-1Jr・D-1Jr・E-1Jr・F-1Jr 新日本グローブ空手道連盟認定グローブ、スネパッド、ひざパッド、金カップ、ヘッドギア。道着の帯は試合中解けないようテーピング等で必ず止めること。

※マウスピースの着用は自由とする。ボディープロテクターは女子選手のみ着用を自由とする。着用する場合は主催者側が用意したボディープロテクターに限る。

【出場資格】

〈グローブ空手〉満 16 歳～満 45 歳までの男性。キックボクシング又は打撃格闘技のプロ(プロ実戦が1戦でもある選手)は出場できない。

〈ジュニアグローブ空手〉小学校1年生から6年生の男女。

〈中学生ワンマッチ〉中学校1年生から3年生の男女。

〈壮年部ワンマッチ〉満 46 歳～満 60 歳までの男性。キックボクシング又は打撃格闘技のプロ(プロ実戦が1戦でもある選手)は出場できない。

【勝敗】(KO・TKO・技有り)

(1) KO (一本勝ち) 5秒以上のダウンをした時。

(2) 本戦で2度のダウンがあった時。延長戦も同じ。

(3) 相手選手のセコンドよりタオル投入があった時。

(4) 相手選手にダメージがあり、試合続行不可能になった時。

(5) 両選手の実力差が歴然とある時は、試合途中においても勝敗の判定を下すことがある。

(6) 相手が明らかに戦意喪失した時、又は審判がそれと判断した時。

(7) 技有り・パンチ・キック等で、一時的に相手に的確にダメージを与えた時、倒れなくてもダウン(技有り)とする。

(8) 選手が負傷し大会医師が試合続行不可能と判断した時は、試合を続行できる選手のTKO勝ちとする。

(9) 故意に反則をした場合は反則負けとする。

(10) 判定の場合、副審の旗が2本以上上がった側が勝ちとする。

【反則技】

(1) 頭突き

(2) 金的攻撃

(3) 顔面への肘・膝

(4) 目突き

(5) 首絞め

(6) 投げ技

(7) 関節技

(8) 嘔みつき

(9) 倒れた相手への攻撃

(10) 服、道着を掴みでの攻撃

(11) 背後からの攻撃

(12) やめの合図後の攻撃

(13) 手足を掴む行為

(14) 相手の体を手で掴んで(首相撲)の攻撃

(15) 相手の足を故意に踏みつける行為

(16) 一方的に攻撃を受け故意に場外に逃げたり、攻撃意思の無い態度の場合(場外カード3回で失格)。

※ジュニアグローブ空手、中学生ワンマッチは「蹴り」以外での顔面への攻撃は全て反則とする。

1 回目で警告、2 回目で即失格とする。

【失格及びルール】

(1) レフェリーの判断により、悪質な試合態度と判断された時。

(2) 試合時間に遅れた時。出場不可能な時。

(3) 測定体重がオーバーしている時。

(4) イエローカードを3回受けた時。(反則は口頭注意2回でイエローカード減点1)

(5) 故意に反則した時。

(6) マウスピースを着けずに出場したり、ワセリン・オイル・油脂類及び薬品類を塗布した時。

(7) セコンドの罵声、悪質な態度により選手が失格になることがある。

(8) コンタクトレンズを装着しての試合出場は認めない。

※上記に明記されていない不測の事態が生じた時は、大会審判長・レフェリー・審判による協議の上、最終判断を下す。